

広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業

<圏域内の市町が抱える地域課題や大学等に期待する取組>

区分	テーマ	地域課題の概要
③交流・移住・定住の促進	空き家の掘り起こし・マッチングの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増加傾向にあるものの、空き家バンクの登録が伸び悩んでいるなど、空き家の効果的な活用ができていない。 ・空き家利活用の希望があっても、マッチングに至らない場合が多い。

市町名	市町の地域課題・取組	大学等に期待する取組
呉市	空き家の所有者が高齢であったり県外在住であるなど、空き家の管理に消極的な人も多く管理不全空き家の増加が懸念されている。	島しょ部地域も含め呉市全域における空き家の活用について、所有者が積極的に対処できるような取組を検討していただきたい。
竹原市	空き家数が年々増加傾向で、空き家バンクなどでニーズが高い空き家をマッチングできる環境を整えるため、所有者意識の向上と空き家バンク登録に向けた効果的な取組が必要である。	定住に向け新築だけではなく空き家の活用（中古物件）の魅力若くは若い世代に伝える情報発信や取組、空き家活用の効果的なマッチングの仕組みづくりを検討していただきたい。
江田島市	相続登記の義務化等の法律改正のあおりを受けてか、空き家の処分・活用に関する相談はとて多く、掘り起こしは順調に進んでいるが、マッチング（成約数）の向上に向けて課題がある。	空き家のDIYなど、今の所有者・次の所有者がともに、重い腰を上げて行動がとりやすくなるような、空き家の活用方法の発信に関する取組を検討していただきたい。
海田町	空き家の有効活用に関するアイデア、ノウハウが無い。	空き家の有効活用に係るアイデア等を提案していただきたい。
坂町	空き家の掘り起こしと市場への流通は、まず空き家が抱える様々な問題を紐解いていく必要があり、中でも立地条件や保存状態の良くない空き家については、所有者が負の財産となった空き家を押し付けられる相手を探すという構図になりがちになっている。	空き家活用の促進のためには、まず所有者本人に、空き家の価値を高める行動を起こしてもらうよう促す必要があると考えており、この方策について検討していただきたい。
世羅町	人口減少に伴い空き家も増加しているが、空き家の現状把握が難しく、また家財整理の負担、相続や登記手続きが滞っている等の理由により、空き家の利活用が進まない状況にある。	空き家の掘り起こし・マッチングの取組を検討していただきたい。
岩国市	中山間地域における空き家バンクの登録件数が伸び悩んでいる。助成制度（家財処分、修繕費用の一部助成）も整備しているが、登録件数の増加につながっていない。	空き家の登録件数の増加につながる所有者への動機づけ、仕組みづくりを検討していただきたい。
周防大島町	空き家が増加傾向にあるものの、家財整理等の負担から所有者が消極的であり、空き家バンク登録が伸び悩んでいるなど、空き家の掘り起こしが進んでおらず、空き家の効果的な活用ができていない。	空き家の活用にも取り組んでいるが、人口減少により空き家も増加傾向にあるので、新たな活用方法や、移住希望者とのマッチング方法など、移住・定住に向けた施策を提案していただきたい。
上関町	人口の減少に伴い空き家も増える一方であり、広報やチラシの配布による周知等は行っているが、空き家バンクの登録件数は少ない。また、空き家バンク利用希望の問い合わせも少なくないが、マッチングには至らないケースが多い。テレワーク等により地方への移住者が増えている今、移住・定住の促進のため、今後はより一層空き家の掘り起こしを行う必要がある。	空き家バンク登録促進および空き家バンク利用希望者への効果的な情報発信の方法、マッチングの仕組みづくりを検討していただきたい。

市町名	市町の地域課題・取組	大学等に期待する取組
田布施町	空き家バンクへの登録は伸び悩んでおり、民間事業者と連携し、空き家に関する相談などに対応する事業の試験導入を開始している。	空き家保有者がなぜ空き家バンクの制度を利用しないのか・どのような支援があれば空き家バンクへ登録する動機付けができるのかを調査し、取組を検討していただきたい。
川本町	年々空き家が増加しており、空き家バンクへの登録も増えてはいるがほとんどが危険空き家レベルである。	より多くの空き家所有者へ周知、広報が伝わるような情報発信方法を検討していただきたい。
邑南町	町内外在住の空き家所有者が空き家を賃貸や売買できる「空き家バンク制度」や相続登記等、空き家になってからどのような手続きをしたらいいか分からない方が多い。一方で、所有者としては先祖代々受け継いできた家を手放すということを消極的に思っている方が多いというのも課題となっている。	今後も町内の空き家が増加していくことが予想されるが、少しでも発生を抑制していく必要があることから、大学生へは、新しい視点で「空き家の活用方法」を町へ提案していただきたい。